



胃癌縮小手術の 現状と展望

腹腔鏡下胃切除術の普及は術後の早期回復に大きく貢献したが、早期胃癌症例や高齢者胃癌患者の増加により、従来の標準術式によって根治を目指す時代から、患者の中長期的なQOL改善を目標とした手術の縮小化を図る時代へと移りつつある。一方で検証されるべき課題も残されており、本座談会では竹内裕也先生(浜松医科大学外科学第二講座教授)司会の下、胃癌縮小手術の現状と将来展望について議論していただいた。

(開催：2017年12月)

〈司会〉

竹内裕也
Hiroya TAKEUCHI



浜松医科大学外科学第二講座教授

市川大輔
Daisuke ICHIKAWA



山梨大学医学部外科学講座第一教室教授

阿部展次
Nobutsugu ABE



杏林大学医学部外科学教室消化器・
一般外科教授

木南伸一
Shinichi KINAMI



金沢医科大学一般・消化器外科学准教授

後藤修
Osamu GOTO



慶應義塾大学医学部腫瘍センター講師